

# 令和3年度特別展「植物標本に見る～野付半島の植物たち～」 関連講座の様子

と き 令和3年6月26日（土）  
午前11時00分～12時00分  
ところ 別海町郷土資料館  
講 師 北方環境研究所  
研究員 深津 恵太 氏  
参加者 5名



2019年、2020年に北方環境研究所研究員深津恵太氏が野付半島先端部（別海町）の植物調査を行い991点の標本を作成しました。この標本をもとに植物の同定をし、76科336分類群（333種1亜種1変種1品種）の植物を確認しました。そのうち、146点の標本が別海町郷土資料館に寄贈されました。寄贈された標本を広く一般に公開するために、令和3年度特別展を開催しました。

今回、深津氏の調査・研究の成果を講座をとおしてお話いただきました。

「野付半島の成り立ちは、4千年前に始まり、半島を形成している地盤は砂礫である。現在の地形とは異なり、沈下、隆起を繰り返し現在に至り、地震との関係性が見出されている。植生の変化は、1985年、2009年のものがあるが、半島の面積も縮減し、塩湿地が増えている。森林・浜堤・砂浜・塩湿地・海中など様々な植物がみられる。外来種も47種、全体の14%を占め、エゾシカの食害により無くなる植物もあった。」（要約）

## ○参加者の感想

- ・野付半島の植物たちについて、深く知ることがありませんでした。とても興味深く聞かせていただきました。地道なキメ細かい研究に感服しました。調べてくれてありがとうございました。
- ・わかりやすい話だった。花が咲く時、タネをつける時、その時をとらえるため、毎日観察に通われたとうかがい、まさに脱帽。展示は、また後日ゆっくり見に伺います。ありがとうございました。
- ・日頃何気なく見ている植物にも歴史が有ったり、植生場所によって異なる植物の成育に興味があり野付半島の良さを改めて感じました。ありがとうございました。

